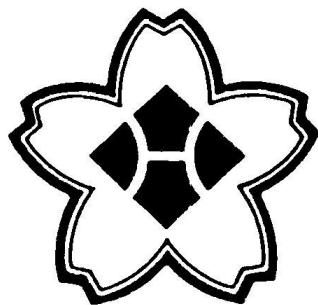


令和6年度

「運営に関する計画」



最終評価

大阪市立矢田東小学校

(様式 1 )

## 大阪市立矢田東小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</b>	
① 令和6年度の小学校経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合(R5:81.4%)を、85%以上にする。	①B
② 令和6年度の小学校経年調査・校内調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合(R5経年:76.7%)を80%以上にする。	②B
③ 令和6年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を令和5年度(88.4%)より増加させる。	③B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】 家庭との連携を密に行い、生活指導案件に対して早期解決を図る。  指標 児童アンケートにおいて「学校は楽しいですか」という項目に対して、最も肯定的に回答する児童 (R5:60%) を 65 %以上にする。	(1-1～4)  <b>C</b>
取組内容②【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】 全学級で、毎月末に、いじめの認知件数と解消した件数などをまとめ、校内で共通理解を図り、組織的な対応を行う。  指標 児童アンケートの「友だちのいやがること（いじめや仲間はずれ）をしないように気付けて行動できていますか」についての、最も肯定的回答の割合 (R5:80%) を 85 %以上にする。	(1-1いじめへの対応)  <b>C</b>
取組内容③ 「特別の教科」道徳、道徳教育の充実を図り、自己肯定感・有用感を持てるようにする。  指標 児童アンケートの「道徳で学んだことは役に立っていますか。」についての、最も肯定的回答の割合 (R5:60%) を 65 %以上にする。	(2-1 道徳教育の推進)  <b>B</b>

取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】

年間を通して複数回、児童の実態に合った体験的な学習や、ゲストティーチャーによる授業を実施するなど、体験活動の充実を図る。

(2-2 キャリア教育の充実)

指標

児童アンケートや経年調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」についての最も肯定的回答の割合（児：78%・経：74%）を80%以上にする。

B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

(1) 年度目標について

- ①は、昨年度比3.7%向上し、目標値も上回った。日頃の様子からも、楽しく過ごしている様子が見られる。
- ②は、経年調査の結果で昨年度比9.9%向上し、目標値を大きく上回った。一方で、校内調査では目標値を下回っているため、Bと評価した。
- ③は、目標値を0.5%上回った。

(2) 取組内容①②は、指標の「最も肯定的に回答する児童の割合」で評価すると、いずれも全体として「C」評価となっている。しかし、「肯定的に回答する児童の割合」は、取組内容①は88.8%、取組内容②は93.8%と高い数値となっている。生活指導案件については、特別活動部（生活指導）を中心に、学級・学年・生活指導・管理職と連携を取り、早期対応・段階的指導を行ってきた。保護者との連絡も密にとり、児童が安心して学校に来られる環境を整えてきた。さらに、学校・学年・学級単位で児童が楽しいと思えるような取組を計画・実施してきた。

また、人権教育部を中心に、人権尊重の立場に立って多様なニーズに対して指導・支援を行ってきた。スクールカウンセラーや生活指導支援員、スクールサポートスタッフやサポーター等も一緒になって児童に関わってきた。特に、増加している外国籍の児童については、外部の関係諸機関と連携して指導・支援を行ってきた。

(3) 取組内容③④は、いずれも全体として目標値を上回った。今後も、道徳教育の充実を図り、児童のよりよい行動変容につなげていきたい。体験的な学習としては、林間学習や修学旅行、遠足といった学校行事をはじめ、区役所と連携した防災学習、社会見学や町たんけん、地域・保育園・中学校との連携、課内実践や障がい者施設との交流、ゲストティーチャーによる授業の実施など、充実した内容で取り組むことができ、児童にとって実りあるものとなった。

改善点

- (1) 今後も安全・安心な教育活動を進められるように、保護者と密に連携し、豊かな心を育むため教育活動を継続して行う。学校全体で、一人ひとりの子どもを大切にした学校づくりをしていく。
- (2) 「肯定的に回答する児童の割合」は、高い数値となっているため、指標の見直しを行う必要がある。

(様式 1 )

## 大阪市立矢田東小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b>	
① 令和 6 年度の小学校学力経年調査における国語の平均正答率の大坂市比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度(3 年 : 90.9 · 4 年 : 95.3 · 5 年 : 96.1 · 6 年 : 97.4)より 1 ポイント向上させる。	①C
② 令和 6 年度の小学校学力経年調査における算数の平均正答率の大坂市比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度(3 年 91.8 · 4 年 97.3 · 5 年 92.1 · 6 年 97.2)より 1 ポイント向上させる。	②C
③ 令和 6 年度小学校学力経年調査の「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」に対して、最も肯定的に答える児童の割合 (R 5:48%) を、2 %増加させる。	③C
④ 令和 6 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動(体を動かす遊びを含む) やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合 (R 5:63%) を 68% 以上にする。	④B
⑤ 特に課題にあげる 50 m 走を、令和 6 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、前年度(男子:9.8 秒 · 女子:10.0 秒)より 0.1 秒短縮させる。	⑤B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容① 【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 基礎基本の定着を図り、個に応じた指導を進め主体的な学びを育む。 (4-2「主体的・対話的で深い学び」の推進)	
指標 小学校学力経年調査における国語の平均正答率の大坂市比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度(3 年 90.9 · 4 年 95.3 · 5 年 96.1 · 6 年 97.4)より 1 ポイント向上させる。	C
取組内容② 【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 基礎基本の定着を図り、個に応じた指導を進め主体的な学びを育む。 (4-2「主体的・対話的で深い学び」の推進)	C

<p><b>指標</b></p> <p>小学校学力経年調査における算数の平均正答率の大阪市比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度(3年 91.8・4年 97.3・5年 92.1・6年 97.2)より1ポイント向上させる。</p>	
<p><b>取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</b></p> <p>主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の推進を行う。</p> <p style="text-align: right;">(4-2「主体的・対話的で深い学び」の推進)</p>	<b>C</b>
<p><b>指標</b></p> <p>児童アンケートや経年調査において「学校の友達との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。(友だちの意見を聞いて「わかった」「なるほど」「私とは違う考えだな」と思ったり、それを発表したりできていますか。)」についての、最も肯定的回答の割合(児:57%・経:48%)を68%以上にする。</p>	
<p><b>取組内容④【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</b></p> <p>「矢田東漢字・計算クライミング」の継続実施や学習教材データ配信の活用等を工夫して行い、児童のそれぞれの学年での基礎学力の定着を図る。</p> <p style="text-align: right;">(4-2「主体的・対話的で深い学び」の推進)</p>	<b>B</b>
<p><b>指標</b></p> <p>「矢田東漢字・計算クライミングパワーアップ週間」で各学年の70%の児童が目標を達成するようにする。</p>	
<p><b>取組内容⑤【基本的な方向5 健やかな体の育成】</b></p> <p>年間を通じて様々な運動ができる場の設定を工夫したり、施設設備・教材教具を有効に活用したりして、体力・運動能力の向上を図る。</p> <p style="text-align: right;">(5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進)</p>	<b>B</b>
<p><b>指標</b></p> <p>児童アンケートや令和6年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツすることは好きですか」の項目において、最も肯定的に答える児童の割合(R5:児79%・経63%)を75%以上にする。</p>	
<p><b>取組内容⑥【基本的な方向5 健やかな体の育成】</b></p> <p>全学年で毎学期に、2時間目の休み時間などを活用した業間体育を実施するなど、健康安全活動の充実(体力づくり)を図る。</p> <p style="text-align: right;">(5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進)</p>	<b>C</b>
<p><b>指標</b></p> <p>1学期に全学年で行っているスポーツテストの結果を分析し、50m走の測定を年間で複数回行い、年度末の記録を年度当初の全国平均より向上させる。</p>	
<p><b>取組内容⑦【基本的な方向8 生涯学習の支援】</b></p> <p>学級文庫の整備や、教職員が学校図書館司書と連携した読書活動の推進を行い、児童の読書意欲の向上を図る。</p> <p style="text-align: right;">(8-2「大阪市子ども読書活動推進計画」に基づく取組)</p>	<b>B</b>
<p><b>指標</b></p> <p>児童アンケートや経年調査の「読書は好きですか。」についての肯定的回答の割合(R5:児86%・経75%)を85%以上にする。</p>	

## 取組内容⑧【基本的な方向 5 健やかな体の育成】

「令和6年度給食における食に関する年間指導計画」に則って、給食指導や栄養指導等を通して「食べ物と健康」のかかわりに対して理解を図り、児童の生活習慣の改善を図る。

(5-2 健康教育・食育の推進)

A

### 指標

児童アンケートなどで「給食の食材が持つ栄養（三色食品群）を意識して食べている」についての肯定的回答の割合を80%以上にする。

### 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- (1) 取組内容①②は、4年生で向上が見られた。しかし、学年が上がるにつれてポイントが下降している。今年度は、算数科を研究教科とし、年間6回の研究授業さらに東住吉区教員研究発表会での発表を行い、区全体に学校の取組を発信した。さらに、若手教員を中心に国語科を専門とするスクールアドバイザーから指導を受けた。校内で20回以上の公開授業を行い、指導力の向上を図ってきた。国語科・算数科の学習の定着が本校の課題として捉え研究を進めているので、今後も継続して指導力向上を図っていく。
- (2) 取組内容③は、児童アンケートの全体では目標値を3.1%下回っている。しかし、前期の児童アンケートと比較すると6.3%向上している。各学年とも話し合い活動は行っているが、考えを深めるために至っていないという課題が残った。
- (3) 取組内容④は、学校全体での取組を行い、計算で目標値を上回った。漢字については、学年が上がるにつれて目標を達成することが難しい傾向が見られた。今後も、学力向上部・学びコラボレーターを中心に、基礎学力の向上と「自ら進んで取り組む」ことをねらいとして粘り強く取り組んでいく必要がある。
- (4) 取組内容⑤は、児童アンケートでは目標値5.6%、5年生を対象とした全国調査では目標値を0.5%上回った。体力向上部を中心に業間体育（1学期：新体力テストの内容につながる運動3学期：かけ足）を実施し、学校全体として運動をする機会を作ってきた。体育科の学習では、体育備品や遊具などを活用することができた。低学年では、小中連携として中学校の体育専科の先生とともに体育科の学習を進めてきた。休み時間の様子から、外遊びが好きな児童が多い。取組内容⑥は、学年や男女で結果にはらつきが見られた。
- (5) 取組内容⑦は、全体として目標値を1.8%上回った。学校図書館司書を中心とした図書室の環境整備、「読書通帳」を活用した取組、各学級での読み聞かせ等の取組の成果と捉える。
- (6) 取組内容⑧は、今年度より取組を開始した項目である。給食食育担当や事業担当主事を中心に、「給食レンジャー」による呼びかけや、給食委員会による放送等で啓発を進めてきた。取組の成果もあり、毎月、児童アンケートの肯定的回答の割合の数値が向上している。

### 改善点

- (1) いずれも本校の実態に合わせた取組であるため、上記の結果と分析をもとに指導方法の工夫等を行い、学校全体として継続して指導・支援していく。必要に応じて研修等を行い、教職員の専門的知識を高めていく。

(様式 1 )

## 大阪市立矢田東小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p>① 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 90 %以上にする（ただし I C T 活用が適さない日数を除く）。</p> <p>② 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 ※を満たす教員の割合（R5:60.8%）を 60 %以上にする。</p>	<p>①C</p> <p>②B</p>

※教員の勤務時間に関する基準 1 ・・・次のア及びイの基準を満たすこと

ア 1か月の時間外勤務時間が 45 時間を超えないようにすること

イ 1年間の時間外勤務時間が 360 時間を超えないようにすること

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 6 教育 DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <p>タブレットやノートパソコンなどの I C T 機器の効果的な活用を図り、毎日の授業改善を実践する。</p> <p style="text-align: right;">(6-1 I C T を活用した教育の推進)</p>	<b>B</b>
<p>指標</p> <p>児童アンケートや経年調査の「タブレット端末（デジタルドリル）を使った授業は楽しいですか。」についての肯定的回答の割合（R5:児 90%・経 71%）を 80 %以上にする。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>教育活動全体の検証・改善によって教育の質を向上させる。</p> <p style="text-align: right;">(7-1 働き方改革の推進)</p>	<b>B</b>
<p>指標</p> <p>「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 を満たす教員の割合を 60 %以上にする。</p>	

## 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

## (1) 年度目標について

- ①については「C」評価とした。児童の 8 割以上という目標を目指しているため、活用の方法を全校で改めて確認し、実践していく。
- ②については「B」評価とした。毎月、基準 1 を満たす教員の割合は 60% を超えている。

- (2) 取組内容①は、目標値を上回り「B」評価とした。タブレット端末の活用のために、I C T 担当や操作に長ける教職員が研修を行い、教職員のスキル向上に努めてきた。「こころの天気」の定着、学習での活用（SKYMEN U cloud、Google Class Room、N H K for School 等）、冬休みの宿

題でタブレット端末（デジタルドリル）を活用するなど、児童・教職員の活用の幅は広がってきた。

- (3) 取組内容②も、目標値を上回り「B」評価とした。スクールサポートスタッフの活用、学校行事の見直し、B 校時の運用、定時にチャイムを鳴らす等の工夫により、基準Ⅰを満たす教員の割合が多くなった。

改善点

- (1) 放課後の時間帯の保護者連絡や会議等での時間を考慮すると、課業中に空きコマがあつた方が良い。